

# ユダヤとアメリカ

## ユダヤとアメリカロビー

立山良司 著  
中公新書

220781191 秋野颯太

# 序章 イスラ エルロビーに 新しい動き

「800ポンドのゴリラが室内に」と言われるほど米国内ではイスラエルロビー（AIPAC）の影響力が強い

1946～2013年の68年間は全世界の援助の60%がイスラエルに集中

2015年のイラン核合意でAIPACが廃止、これが可決されAIPACの影響力が低下

これにはユダヤ社会の影響

本書ではこれが両国とイスラエルロビーにどのような影響か説明

# 第一章 イラン 核問題とイス ラエルロビー

- 2015年7月イラン核合意が最終合意
- 内容はイランが核開発を制限する代わりに、イランに対する欧米諸国の経済制裁の解除
- これにイランと敵対のイスラエルはどんな制限をかけてもイランは核開発と強く反対
- それに加え、主要団体の指導者がこの合意に賛成、AIPACに反対するロビー団体Jストリートも賛成しどんどん勢力を拡大
- AIPACの影響力は低下

## 第二章 米国 とイスラエル

- 1962年当時の大統領らが二国の関係を「特別な関係」と表現
- 他にもソ連との冷戦の影響から米国はイスラエルを「戦力的資産」として位置付け
- さらに関係を深め、1980年代にはGDPの10%が返済不要のアメリカの援助に
- しかし近年ではイスラエルの政策の批判も増加、イスラエルは米国優先事項のトップテン以下に。
- 理由はイスラエル首相の米国内政治への干渉、ガザ住民への軍事作戦の批判

## 第3章 イス ラエル・ロ ビー

- だんだんとイスラエルロビーが米国議会やホワイトハウスへの影響力を拡大
- イスラエル政府の強硬な占領政策や入植活動に対し、無条件に支持
- リベラルな政治志向を持つ米国ユダヤ社会はこの占領の継続に反発し「Jストリート」を立ち上げ
- この組織はイベントを開催したり地方組織や学生組織を拡充し影響力を増幅

## 第4章 存在 感の増すJス トリート

- 最初は既存ユダヤ系組織から批判の嵐
- 2009年のオバマ政権発足から追い風に
- 2013年にはワシントンで開催された年次総会に出席
- ワシントンで無視され続けた多数派のユダヤ社会の代弁者
- 若いユダヤ人が多く賛成

## 第5章 イスラエルの右傾化と米国ユダヤ社会の批判

- 「基本法ユダヤ民族国家」法案をめぐる論争が争点
- これはイスラエルをユダヤ人の民族国家と定義するものでイスラエル国内と米国ユダヤ社会が闘争
- これにより二つの間で大きな亀裂が
- 近年イスラエル国内では民族や宗教としてのユダヤ性を重視し国家に忠誠を求める傾向が強加
- そして旧世代のユダヤ人は犠牲者であるという主張にイスラエルが強大なパワーを持つ現実を見ている若い世代は反発
- 二国間、世代間に大きなギャップ

## 第6章 米国キリスト教社会とイスラエル

- 1981年に「ユダヤ人のためにパレスチナを」という嘆願書から始まり米国のキリスト社会がイスラエルを強く支持
- 特にエバンジェリカ（福音派）は神はイスラエルにユダヤ人を与えたと」イスラエルを強く支持
- キリストや貝ではエバンジェリカが強いがユダヤ社会内には反発派も存在



# 終章イスラエルロビーの今後

- イスラエルロビーの今後を検討するために5つの要素が必要
- 米国ユダヤ社会の一体性、米国ユダヤ人のイスラエルの帰属意識、党派を超えた米国議会のイスラエル支持の変化、米国社会一般に強いイスラエル支持の減少の兆し、国益を米国とイスラエルが共有するという点の変化。
- 今後イスラエルロビーの影響は変わっていく。